

AIWFF2010 デイリーニュース

9月12日

日曜日

あいち男女共同参画財団
企画協働課内

電話 (052)962-2512

http://www.aiwff.com

観客賞「レオニー」、愛知県興行協会賞「月あかりの下で」に決定!!

昨日、午後6時からウィルホールであいち国際女性映画祭2010の観客賞と愛知県興行協会賞が発表されました。

エントリー13作品のうち、みごと観客賞を獲得したのは松井久子監督の「レオニー」で、愛知県興行協会賞には太田直子監督の「月あかりの下で」が選ばれました。

「ハート・ロッカー」の上映に先立つ授賞式では、愛知県興行協会賞を受賞した太田直子監督は、「大変光栄な賞を、本当にありがとうございます。まさか、私がこのような素晴らしい賞を頂けるとは思ってなかったので、何も考えてきませんでした。初めて作った映

画をこのような映画祭に招いていただき、ありがとうございました。この賞を励みにして、全国で上映されるよう頑張っていきたいです。」と喜びとこれからの抱負を語りました。

観客賞を受賞した松井久子監督は、「13年前にここから監督としてスタートして、また、ここ愛知に戻って来れたことを大変嬉しく思います。私は、これまでに賞をもらったことがないのですが、私はいつも観客の皆様に応援していただき、支えてもらっているの、まさにこの観客賞は私にぴったりの賞であると思います。」と笑顔で語っていました。



▼左から野上照代運営委員、松井久子監督、太田直子監督、大塚勉愛知県興行協会理事長

観客賞「レオニー」



©レオニーパートナーズ合同会社

世界的に有名な彫刻家、イサム・ノグチの母親であるアメリカ人女性、レオニー・ギルモア(エミリー・モーティマー)。明治から昭和にかけて女性が仕事を持つことも困難だった時代に、自ら選んだ己の愛を貫き、シングルマザーという運命を引き受け、イサムを芸術家になるべく育てあげた母の物語。

愛知県興行協会賞「月あかりの下で」



クラスの大多数が小中学校時代に不登校を経験。教師に悪態をつく、自傷行為に走るなど、様々な事情を抱えた若者たちが、担任をはじめとする教職員との心のふれあい、クラスメイトとのぶつかりあい、支えあいの中で育っていく様子を入学から卒業、そして<その後>に渡り記録したドキュメンタリー映画。

映画祭四日目 黒澤明生誕100周年記念 特別上映&巨匠対談 会場沸く

昨日、黒澤明生誕百周年記念企画として、「映画の肖像 黒澤明 大林宣彦 映画的对話」と「隠し砦の三悪人」の各上映後 大林宣彦、木村大

作各監督を迎え、黒澤プロ元プロダクション・マネージャーの野上照代さんとの巨匠対談が実現。野上照代さんは、黒澤明監督のスクリプターとし

てほぼすべての黒澤作品を支え、ゲストの各監督ともたいへん親しい間柄で、対談中には黒澤映画の核心に迫るエピソードなどが幾度も飛び出

し、その度に会場から大きな反響がありました。

「隠し砦の三悪人」木村大作監督と野上照代さん

午後1時30分からのウィルホール、「隠し砦の三悪人」の上映後、木村大作監督と野上照代さんが登壇。

その直後、木村監督から「そんな後ろの方に座らないで、もっと前に来てくださいよ。」と一言あって、多くの観客がステージ前の席に詰め寄り、対談はアットホームなムードでスタート。

木村監督は、黒澤明監督で初めて撮影助手を務め、「映画の全ては黒澤さんから学びました。それがなかったら今の自分はありません。」と黒澤監督が自らの映画人生の原点であることをキッパリと発言。

また、「(映画の)冒頭の階段で人々が暴動を起こすシーンは、撮影中、黒澤さんにカメラを持ってみるかと言われて、初めて撮ったシーン。当時のカメラは大変重く、ぬかるみで転んで

カメラを壊してしまったことがあるんですよ。また、バッテリーの中の塩酸をこぼしてしまい、着ていたワイシャツをボロボロにして、黒澤さんに笑われたこともあるんです。」と失敗談を次々披露。

当時から木村監督をよく知る野上さんは「そんな失敗談があったなんて知らなかったわ。」

と驚きを隠せない様子。

さらに、木村監督が、「今の若い子は、黒澤さんの作品を見たことのない人が非常に多い。そんな若い世代の人たちにも、黒澤明の映画は、是非とも見ていただきたい。」と語り、野上さんも深く頷いて賛意を表し、黒澤監督について思い出の尽きない対談となりました。



「映画の肖像 黒澤明 大林宣彦 映画的对話」大林宣彦監督と野上照代さん

午前10時からの大会議室、「映画の肖像 黒澤明 大林宣彦 映画的对話」の上映後、大林宣彦監督と野上照代さんが登壇。

まず、大林監督は「当時、黒澤監督は天皇と呼ばれ、わがままですぐに人を怒鳴りつけるというイメージが強かったので、私はこの作品を作るとき、本当は

優しくナイーブで素敵な黒澤監督の素顔を撮ることを意識した。」とコメント。

また、作品中での女性の描き方について、野上さんから「女性の描き方がうまいと言ったのは、大林監督が初めてだ。」と指摘すると、大林監督は「当時、女性の描き方は、男性が上から女性を下に見るものが主

流だったが、黒澤監督は人を見下ろすことのできない人だった。そこが一般的に女性を描くのが下手と言われたゆえんであるが、実はたおやかに女性を描いた人だったと改めて感じた。」と、女性映画祭ならではのエピソードを披露。

最後に大林監督は、「映画がなくても生きていけるので、映画は粗末にされがちだが、映画があれば、どれだけ豊かに生きていけるだろうか。

文化とは豊かな部分であり、時に無駄かもしれないが、映画により人は美しく幸せに生きていける、というのが黒澤監督の伝えたい願いであった。

私はこの作品を通して、彼の願いを次世代へと伝えていきたい。」と黒澤監督への想いが熱く感じられる対談となりました。



9/8-10 女性監督迎えてシンポジウム、トークサロン開催

シンポジウム「ソウル国際女性映画祭にみるアジアの新進女性監督」

9月8日(水)午後5時から「ソウル国際女性映画祭にみるアジアの新進女性監督」をテーマに、ピョン・ジェランソウル国際女性映画祭共同ディレクターと短編作品「Believe in Me」のキム・ジニョン監督が参加。

ピョン共同ディレクターは、「ソウル国際女性映画祭では、女性視点から見た生き方や人生について、多角的な面から映し出すために、優れた人材の育成に努めている。特に最近では、韓国のみならずインドネシ

アなど、アジア全土から新監督の発掘を行っている。」と女性監督の育成に力を注いでいると発言。

キム監督は、女性監督の課題について、「以前は女性監督の制作活動は消極的だったが、近年は制作本数も多く、積極的。しかし、女性であることで仕事をしながら家事など家庭内での女性としての役割を果たすことが求められるのが問題点。」と指摘。

また、当映画祭木全純治ディレクターからの「女性映画祭における男性の関わりは?」という質問には、ピョン共同ディレクターは「ソウル国際女性映画祭では10回目を迎えた際に、これからは性別にとらわれず、より

よい映画界のために男女ともに協力し、発展していく映画祭にしよう。」と新たな方向を打ち出したことを紹介。

その後も、終始、活発な意見交換が行われ、予定時間を延長するほどで、参加した映画ファン、映画関係者双方にとって意義深いシンポジウムとなりました。

9月9日(木)午後5時から「坡州(パジュ)」のパク・チャク監督と「ミスにんじん」のイ・ギョンミ監督、ピョン・ジェランソウル国際女性映画祭共同ディレクターを迎えて、参加者の方々とフレンドリーに語り合うトークサロンを開催。

パク監督は、ロッテルダム映画祭タイガーアワードの受賞につ

韓国女性監督と語るトークサロン

いて、「賞を取った時は、結婚式の花嫁のようだった。無理矢理でも喜ばなくては行けないが、その後、改めて考えると嬉しいものです。私は花嫁になったことはないが...。」と冗談を交

えてコメント。

イ監督は、「パク監督は、大学の先輩だったが、印象的だったのがパク監督が卒業映画を作るときに中指に指輪をつけてい

(裏面に続く。)



本日の上映作品&来場ゲスト

ディア・ドクター Dear Doctor

山あいの小さな村で、ただ一人の医者として村民から慕われている伊野治。しかし突然、伊野治は謎の失踪を遂げ、事件は思わぬ方向へ向かう。

映画初主演の笑福亭鶴瓶をはじめ、瑛太、余貴美子、香川照之など個性派、実力派が共演。気鋭の監督・西川美和の長編第3作目。



ブレスド Blessed

それぞれのさまよい、愛のリセット

玄関のギリシャ正教のアイコンとともに、祈りのロウソクが照らしたすのは亡き夫と、もう一人の“失われた”愛する家族。同じささやかな灯火は、寄付品の収集コンテナでホームレス暮らしをする兄妹を守り続け、悲劇を生む。拒まれても、ロンダが「神の恵み(ブレスド)」と愛した子供たちは、懺悔と、彼らに代わり生まれてくる新たな命への、真の慈しみの誓いととも「天国のひと(同)」となって神に召された。誤った愛で苦しめてしまった我が子の無事に安堵した、もう一人の母親・ジナの涙の意味も同じだ。

世界中から新天地として、様々な人々を引きつけてきたオーストラリア。誰もがルーツは異邦人どうしの中、生き抜く闘いは熾烈であり、いっぽう白人に故郷を奪われたアボリジニに居場所はない。子供たちをやるせない思いばかりのストリートの日々を追いやったのも、無垢なアボリジニの少年を非情な実業家にさせたのも、母親との確執だけではないのだ。夢と希望の大地と映る移民国家の内側では、それを我が子のために叶えなければならない…(野中恵子 トルコ研究者・作家)



韓国女性監督と語るトークサロン

(表面から続く。) たこと。」と当時を振り返りながら、「私も卒業映画(「Feel Good Story」)を制作したときに精神的にも肉体的にも辛かったの、自分もパク監督のように指輪をつけたら、気持ちが楽に

なった。」とエピソードを紹介。ビョン共同ディレクターは、ソウル国際女性映画祭を振り返って、「第2回は通貨危機もあって開催することすら大変だったが、今ではこうしてソウル国際女性映画祭から生まれたパク監督や

坡州(パジュ) Paju

学生運動の残影と閉塞感に満ちた街

パジュはソウルの西北部に位置し、軍事境界線を挟んで北朝鮮と対峙する街。近年はソウルのドーナツ現象に伴いマンションの建築ラッシュが起きており、ベッドタウン化が進んでいる。ニューカマーと地元民という二重構造は、再開発に伴う痛みを含んでおり、映画の冒頭に登場するビル撤去の反対闘争などは、90年代前半まで盛んだった、韓国の学生運動を彷彿とさせるものがある。主人公のジュンシクは学生運動崩れで、かつては警察に追われる身であった。ウンモの姉と結婚して、一見安定した生活を送っているように見えるが、コーヒーを売るときもテントの中から出て、客の呼び込みをするでもなく、常にじっとしている。このことは、警察に指名手配されていた頃の名残で

あり、知り合いや刑事に出会うのではないかという恐れによるものである。スクリーンに漂う閉塞感、北朝鮮と接する地であり、これ以上逃げ場がないという、ジュンシク的心情と重なって見える…(土田真樹 韓国在住映画ジャーナリスト)

パク・チャノク 監督 Park Chan-ok

1968年生まれ。漢陽大学と韓国芸術総合学校で映画制作を学ぶ。ホン・サンシ監督作「秘花〜スジョンの愛〜」(00)助監督を務めた後、「嫉妬は私の力」(02)で監督デビュー。ロッテルダム映画祭タイガーアワード、釜山国際映画祭ニューカレントアワードなど数々の賞を獲得。7年ぶりの第2作「坡州(パジュ)」で釜山国際映画祭 NETPAC 賞を受賞した。



新進女性監督と語るトークサロン

9月10日(金)午後5時から日本の新進女性監督3名をゲストに迎えて、トークサロンを開催。ゲストは、前日上映した短編作品、「嘘つき女の明けない夜明け」の熊谷まどか監督、「ホールイン・ワンダーランド」の清水艶監督、「アンダーウェア・フェア」の岨手由貴子監督。どの作品も、ぎゅっと詰まったストーリーに思わず引き込まれてしまう魅力ある映画。そんな作品

を制作された3人が熱く語りました。参加者から「どんな作品でもいいので、今後、一人の自殺しようとしている人を止めるような、そんな映画を作ってほしい。」と要望された際には、「おっしゃる通り。必ずしも名作と呼ばれなくてもいい。一つの映画にふれたことは、必ずどこかで見てくれた人の一部になっている。同じよう



ミスにんじん Crush and Blush

はみ出し者たちよ、共闘せよ!

一度見たら忘れない強烈なキャラクター造形と予想できない奇妙な展開が光るキュートでちょっぴりブラックなコメディ。本作で長編監督デビューし、脚本も手がけているイ・ギョンミは、2004年の本映画祭で紹介された「子猫をお願い」のチョン・ジュンや今年「坡州(パジュ)」が上映されるパク・チャノクと並ぶユニークな才能の持ち主であることをこの1作で証明した。高校時代から好意を持っていて、卒業後は同僚となった男性教師に一方的に執着するヒロインと、途中から共闘することになった男性教師の娘とのコンビネーションが絶妙。学校中の爪弾きものである2人が協力して男の恋人である女性教師を陥れようとするのだが、その方法がなんだかとぼけていて笑いを誘う(彼女たちが並行して文化祭で演じるためにサミュエル・ベケットの『ゴ

ドーを待ちながら』を練習しているのもおもしろい)。そして、いつしか彼女たちの必死さが胸に迫り、たまたま愛おしくなってくる。かなりだめな主人公ミスク役は「家族の誕生」やドラマ『ありがとうございます』のコン・ヒョジン。抜群のプロポーションを誇り、韓国を代表するファッションアイコンとして知られる彼女だが…(佐藤結 映画ライター)

ファン・ジュヘさん(アートディレクター) Hwang Joo-hye

韓国芸術総合学校で舞台芸術を専攻。『約束 Over the Border』(06)ではヒョニヤンのストーリー、『タチャイカサマ師』(06)では賭博場、『ハビネス』(07)では田舎の療養院のデザインを担当。韓国トップミュージシャン SG Wanna Be や Davicciなどのミュージックビデオも手掛ける。アートディレクターとしてのデビュー作『ミスにんじん』では、わずかにしか映らないところにも、登場人物の個性を表すさまざまなセットや小道具を配した。



にとにかく作品を生み出す限りは、どこかで誰かの何かになると思う。そういうものをめざしたい。」と語ったのは熊谷監督。清水艶監督も「自分のためだけに作っているというのは意味がない。作るからには(観てくれた人に)いい方向に働きかけるものをつくる。」と今後の制作への意気込みを話しました。岨手監督は、「一緒に育ってき

た映画と呼ばれるものになりたい。「一緒に育ってきた映画」というのは、完璧だったり教育的というわけではありません。年代や時代で見られ方が変わってくる。そんな映画が好きです。」と笑顔で語ってくれました。

名古屋観光ホテル 460-8608 名古屋市中区錦一丁目19-30 TEL.052-231-7711 www.nagoyakankohotel.co.jp

TOYOTA 明日へ、つづく、つないでいく。美しい自然を、人間は創り出すことができません。現代のこの素晴らしい文明も、私たちが支えています。ここにきては、選りすぐり受け継いできた大切なもの。この財産を豊かに守り、子どもたちの未来に守りつづけることが、いまを生きる私たちの使命ではないでしょうか。トヨタは「環境」「交通安全」「人材育成」をはじめ「芸術・文化」「共生社会」など幅広い分野で、さまざまな社会貢献活動を進めるとともに、社会のボランティア活動を積極的に支援しています。日本で、世界で、地球市民の一員として、豊かな社会をつくりその持続的な発展のための活動に取り組んでいます。トヨタの社会貢献活動の情報は、インターネットで詳しくご覧いただけます。http://www.toyota.co.jp/social_contrib/

MENARD 美容液 メナード コラックス 65mL 15,000円(税込15,750円) 高級美容液の定番です。 052-120-164601 09:00-22:00(10/30 18:00) www.menard.co.jp

名古屋 大須 アメ横ビル 営業時間 (第1) TEL(052) 251-0100 (第2) TEL(052) 251-0200 AM10:00 ~ PM8:00 ホームページ www.osu-ameyoko.co.jp

映画で 感動と潤いを... 私達は、明るく親しまれる映画館・劇場を目指しています。生活衛生同業組合 愛知県興行協会 映画情報はこちら 愛知県興行協会 検索